

(1)

西条市では産官学分野の様々な有識者の方々にお会いし、多方面からのご意見をいただき、市政に役立てています。

(聞き手・西条市長 伊藤宏太郎)



伊藤忠商事株式会社

取締役会長 丹羽宇一郎氏

(経済財政諮問会議 民間議員
地方分権改革推進委員会 委員長)

第1回日は、西条市の恵まれた資源である「水」について、経済界から見た貴重なご意見をお聞きすることができました。

(プロフィール)

1939年生まれ。62年名古屋大学卒業後、伊藤忠商事入社。以後一貫して食料畑を歩み、98年取締役社長就任、04年より現職。

世界経済成長のキーポイントは「水」 西条市民にとって「水」は大変な資産です

市長 本日はお忙しい時間をいただき、ありがとうございます。

わがまち西条市は、西日本最高峰の石鎚山系を源流とする二級河川加茂川の扇状地・沖積平野に、日量9万トンといわれる豊かな湧水が、道路脇から民家の軒先まで、市街地のあらゆるところで「うちぬき」とよばれる自噴井として噴き出すほど「水」に恵ま

れています。

また、西条の水は、昭和60年に環境省から「名水百選」として選定されており、平成7年、8年には岐阜県で開催された「全国きき水大会」において2年連続日本一を頂戴いたしました。
丹羽会長 それはすごいですね。本当に西条は日本の中でも水に恵まれているまちだと思います。

市長 しかし、豊かになるとなかなかわからない。ここが辛いところでもあります。

丹羽会長 すべての日本人が「日本は水に恵まれている国」だと思っているのではないのでしょうか。

地球上にある水は14億立方キロメートルといわれています。計算方法はいろいろあるようですが、真水はそのうちのたった3%。しかしその3%

うちの17%しか使いきれない。通常は雨水として循環している水を、いったんダムや湖に蓄えることで人間は

水を使っている訳です。つまり、水を使えるようにするためのインフラ整備に相当の投資が必要なんです。

西条市のように水が自然に湧き出ている場所は珍しい。

市長 西条市民は水道に頼らず、直取りの地下水を直接飲んでいきます。

丹羽会長 それは素晴らしいですね。水質検査はやっていきますか？

市長 はい、やっています。しかし、地下水が勝手に湧き出るからといって、使う一方ではいけません。しっかりと調べる必要があるだろうとい

うことで、平成8年から11年まで、市の単独事業として7200万円を掛けて調査をいたしました。この調査で深さ150メートル、南北約400〜2200メートル、東西5キロ弱という面積で地下水盆があることがわかりました。ここに3億500万トンの水が眠っています。

丹羽会長 西条市の市民の皆さんにとってこれは大変な資産ですよ。先程お話ししたように、地球上には水があるように実はないのですから。

市長 はい、本当にそうですね。

丹羽会長 よく日本は海に囲まれているから大丈夫という人がいます。もちろん海水を淡水にする技術はあります。しかし、1トンに約100円というコストが掛かります。たった100円と思われるかもしれませんが、農作物を作るには1キロに2トンの水が必要で、米1キロに3トン、牛肉1キロにはその飼料となる作物を作るのに必要な水も合わせて20トンの水が必要です。ですから100円といっても馬鹿にできませんね。

市長 会長は将来の具体的な

国際問題として世界的な「水の争奪戦」をあげてらっしゃいますか。

丹羽会長 私は世界経済の成長の阻害要因はエネルギーではなく「水」だと考えています。インドや中国といった人口が多いところではとくに大変です。すでにインドの一部では地下水がかなり枯れていて、農民の農地放棄が始まっています。2030年にはインドはおそらく「水」で経済成長が抑制されるでしょう。中国も同じです。シンガポールも使用する水の50%をマレーシアから買っています。つい最近、マレーシアが価格を倍に引き上げたばかりです。しかしシンガポールはマレーシアに払わざるを得ない。ですから自然に湧き出ている西条の水は本当に大切にしないといけません。大変な財産です。

例えば、地下水が枯渇し始めるとあつという間に食料の生産が減ります。先程お話ししたように、食料を作るには圧倒的な水がいるのです。日本はエネルギーも水もない、食料もカロリーベースで4割しか自給できない。そういう

調べる必要があるだろうとい

調べる必要があるだろうとい